



# 若き光

題字：第56代 高麗大記

令和7年2月23日 発行：高麗神社々務所

## 「日韓友好に向けて」

埼玉県議会議員  
小谷野五雄



私は平成十年六月に埼玉県議会議員に当選させていただきまし  
た。初めて登庁したとき、ある県議会議員から日高市はどの辺にあ  
るのかと問われました。日高市があまり知られていないことに驚き  
ましたが、東京都と秩父の中間  
で、地元には高麗神社があります  
と説明したのを覚えています。

当時の県議会では日韓ワール  
ドカップの日本開催に向けて  
県営サッカースタジアムの建設  
などを進めていました。私はすぐ  
に日韓友好議員連盟に入り、当時  
の土屋知事とともに韓国の準備



日韓友好埼玉県議会議員連盟 韓国訪問団

会議に参加しました。その夜の  
晩餐会の時、当時の韓国大会組織  
委員長 朴世直（パク セジク）さ  
んから「この中に埼玉県日高市  
選出の県議さんはいらっしゃい  
ますか」と聞かれました。私はす  
ぐに挙手をして答えました。朴さ  
んは「韓国と日本の友好の懸け橋  
は日本にある高麗神社です」と  
述べられました。私は驚喜するとともに日韓の友好にさらに努力  
していこうと決意を新たにしました。このことを先代の高麗澄雄  
宮司にお伝えすると「歴史に残るお話ですね。友好というのは、  
歴史はもとより人と人、心と心が重要です。県議もこのことを忘  
れずに政治をすすめて欲しい」そのような言葉をいただきました。  
私はこの出来事を常に胸に刻みながら、これからも一所懸命に努  
めていきたいと思っております。



パク セジク氏と固い握手を結ぶ

## 社宝見聞録

### 一五〇年前の淑蔭記文

#### ―高麗氏系図返還の経緯―

淑蔭とは、幕末・明治期に活躍した人間郡  
石井村(坂戸市)の国学者井上淑蔭のことです。  
明治七年(一八七四)に「高麗氏系図」の返還  
に尽力し、これを実現させました。  
返還の経緯を美しい仮名交じりで記したも  
のが「淑蔭記文」(写真1)で、掛軸の形で伝  
えられています。

「高麗氏系図」(以下、「系図」)は、高麗

神社の社家高麗氏に伝わる系譜です。中世から  
近世まで書き継がれ、江戸時代の約二〇〇年間  
は、高麗氏の親戚であった人間郡塚越村(坂戸市)  
の大宮住吉大明神(大宮住吉神社)大宮司勝呂氏  
に伝えられていました。

高麗大記(高麗氏五十六代)の日記『桜陰筆記』  
によると、「系図」返還は、次のような経緯で  
実現しました。

明治七年七月一六日に井上淑蔭の斡旋で、勝呂  
家から高麗家へ「系図」返還の話がまとまりまし  
た。

八月六日、大記は新堀村の加藤小太郎とともに  
石井村の淑蔭宅へ赴きました。勝呂美胤から

「系図」を受け取り、感謝状を手渡しました。  
その後、塚越村の勝呂美胤宅・勝呂菊丸宅へも  
立寄り、大記と小太郎は石井村の岩田利助宅へ  
宿泊しました。

「淑蔭記文」には、宴席で淑蔭が和歌を詠み、  
美胤が琴を奏し、大記が漢詩を詠じるなど、雅  
な時間を過ごした様子が描かれています。

なお、日付や経緯に齟齬があるのは、高麗の  
淑蔭が後年に記憶を頼りに記したためと考えら  
れます。

(横田稔 高麗神社主任学芸員)

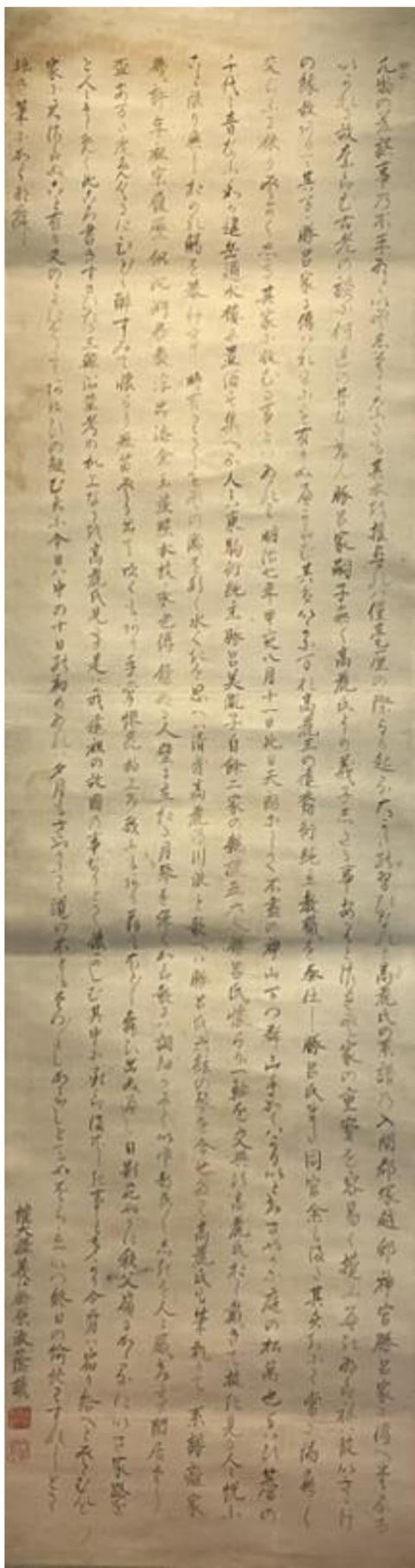


写真1：明治10年頃 淑蔭記文

# 神社まめ知識

参考書  
日本の祝日と歳事の由来 生方徹夫著  
世界の国々と祝日 本村凌二 監修

## 我が国の祝日について

世界の国々では、その国の伝統や文化、歴史に由来した日を祝日として定めています。我が国の祝日は、戦前と戦後で大きな変化がありました。祝祭日とは、宗教的な儀礼を行い、これを祝う日を言います。世界では、この祝祭日が祝日として制定されている事が多く、例を挙げれば、キリスト教圏での復活祭やクリスマス、イスラム教圏では断食月（ラマダン）や犠牲祭、仏教圏での万仏節や灌仏会などがあります。

我が国では、江戸期に幕府が五節句を祝日として定め、明治期以降は政府が法令の中で祝祭日を定めました。昭和二年時点の祝祭日を見ると一月三日の元始祭、春分日の春季皇霊祭、四月三日の神武天皇祭、秋分日の秋季皇霊祭、十月十七日の神嘗祭、十一月二十三日の新嘗祭と宮中三殿における重要な祭祀の執行日に併せて定められていました。戦後は、連合国総司令部（GHQ）の占領下で、新憲法が制定され「信教の自由」と「政教分離（信教の自由を保証するため政治と宗教が相互に介入し合うことを禁止する）」が徹底され、昭和二十三年改正の祝日法も影響を受けました。祝祭日の概念から祭日を除き、祝日を記念日として捉えるようになったのです。令和七年の国民の祝日とその各意義については下の表に掲げます。更に現在では、経済効果や余暇の提供を目的にハッピーマンデー法が施行され「成人の日」を始め四つの祝日が月曜に移動し三連休を形成しています。国民の豊かで健やかな暮らしに貢献する一方で、連休の内の一日になったことにより、祝日への意識が薄れてしまいました。

令和7年 祝日

名称	日付	意義
元日	1月1日	年のはじめを祝う
* 成人の日	1月13日	おとなになった事を自覚し自ら生き抜こうとする青年を祝い上げます
建国記念の日	2月11日	建国をしのび、国を愛する心を養う
天皇誕生日	2月23日	天皇の誕生日を祝う
* 春分の日	3月20日	自然をたたえ、生物をいつくむ
昭和の日	4月29日	激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす
憲法記念日	5月3日	日本国憲法の施行を記念し国の成長を期する
みどりの日	5月4日	自然に親しみとともにその恩恵に感謝し豊かな心をはぐくむ
こどもの日	5月5日	こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する
* 海の日	7月15日	海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う
山の日	8月11日	山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する
* 敬老の日	9月16日	多年にわたり社会につけてきた老人を敬愛し、長寿を祝う
* 秋分の日	9月22日	祖先を敬い、なくなった人々をしのぶ
* スポーツの日	10月14日	スポーツを楽しみ他者を尊重する精神を培うとともに健康で活力ある社会の実現を願う
文化の日	11月3日	自由と平和を愛し、文化をすすめる
勤労感謝の日	11月23日	勤労をたっぴ生産を祝い、国民たがいに感謝しあう

\* ハッピーマンデー法により、日にち固定ではなく、月曜日固定になった祝日

\* 春分の日・秋分の日は、法律で具体的に明記されていません。

国立天文台が、毎年2月に翌年の春分の日・秋分の日を官報で公表しています。

## 境内さんさん

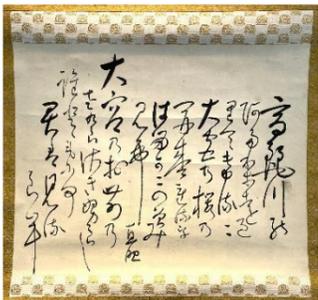
高麗神社の御神木

— 大宮の御前の桜 —

高麗川のあたりを過りてけるに  
大宮の桜の開盛れるをはるかにのぞみ  
大宮の御前のさくら さきねらし  
誰と共にか 君は見るらむ

国学者 権田直助の詠んだ短歌です。

高麗神社を代表する桜に樹齢三百年といわれる「御前の桜」があります。樹種はヒガンザクラで境内の広い前庭にどっしりと構え、満開には三百六十度どこからでも愛でる事ができる中心的な御神木です。この短歌が詠まれた明治の頃の社殿は現在とは違い東向きで、桜は社殿の前神様からも良く見える、まさに「御前の桜」でした。「大宮」は、江戸時代以前の当社の古称で大宮大明神ともいわれました。権田直助は、毛呂本郷（現 毛呂山町 毛呂本郷）出身で、十六代当主高麗大記と深い親交がありました。



権田直助の短歌 原本

桜の語源には幾つか説があります。桜花の女神である木花開耶姫のサクヤの転訛、麗らかに咲くという意味の咲麗の転訛のほか、サクラのサを穀物の霊を表す古語、クラを神霊が依り鎮まるところを意味するとして、「サ・クラ」で春の初めに咲く穀霊の依代を表すとする説などです。いずれの説をとっても昔の人々が



大正5年以前の御社殿と御前の桜

咲き誇る美しい桜花に、神の存在を感じていたことがわかります。権田直助が愛でた御前の桜は、今も見事な花を咲かせて訪れる人を魅了しています。

現在、三月の開花時期に合わせて桜花祭と夜桜会が行っています。桜花祭では庭上での祭典の中で祭祀舞が舞われ、夜桜会では、桜のライトアップが行われ、幻想的な夜桜を見る事ができます。四月第一日曜日に



夜桜会の彼岸桜（御前の桜） 桜花祭で祭祀舞が行われる

は、氏子会による桜祭が行われます。桜の下で餅つきや獅子舞が披露されます。大切な家族や仲間と、或いは愛する人と、今年も御前の桜の下で、たくさん思い出が育まれることでしょう。



桜祭の獅子舞

【令和七年 行事案内】

- 桜花祭・夜桜会 三月二十三日（日）
- 祭祀舞 三月三十日（日）
- 桜祭 四月 六日（日）

【詠み人 権田直助 紹介】一八〇九年〜一八八七年 武蔵国入間郡毛呂本郷（現・埼玉県入間郡毛呂山町）出身。幼名を玄常、号は名越廼舎（なごしのや）。医師は野間広春院、漢学は安積良斎、国学を平田篤胤に学び、相楽総三や落合直亮らとともに尊王攘夷運動に関わる。維新後は大学校の設立等に尽力し、大学中博士となる。皇典講究所文学部教授、神道本局顧問を歴任。晩年は神社再興の先駆者として大山阿夫利神社の祠官及び三嶋大社の宮司に任ぜられた。墓所は権田公園（伊勢原市）となっている。



# 岡本一平『熊を尋ねて』

高麗神社 宮司 高麗文康

岡本一平は、画家、漫画家、小説家として一世を風靡した人物である。明治十九年(一八八六)北海道函館に生まれた。祖父は津藩に仕えた儒学者、父は書家であった。妻は歌人、小説家 岡本かの子、子は著名な芸術家岡本太郎、妹が洋画家池辺鈞に嫁ぎ、長男は俳優池辺良である。

一平は洋画家を志し、若い頃帝劇で壁画を描いていたが、夏目漱石の連載小説の挿絵を代行したことをきっかけに大正元年(一九一二)朝日新聞に入社した。取材で各地を訪ね、得意のスケッチに短文を添えた記事が「漫画漫文」と称され好評を博し漫画家として名を成した。当社に関わる『熊を尋ねて』は昭和四年先進社から発行された『一平全集』所収で、記者らしく(?)第一信から第八信と通信の形式で章立てをしている。第一信「深え



一平全集 装丁デザイン

やまでさ、熊がでる」は、一平が仲間と共に川越で行われた演習を見に来ると、宿で「秩父にも熊が出る」噂を耳にしたため、その真偽を確かめようと単身秩父を目指す。川越で演習見物となると、

しかし、苛立った風でもなく「これは別にくまが居ないからとてこまを尋ねるといふ洒落であるんでもなんでもない事を茲に一言して置く」と高麗村の、のんびりした風情にすっかり染まったような戯言で第二信を締めくくった。

第三信「裸体の流鏝馬」は当社に関わる事柄で埋め尽くされている。冒頭で高麗郷、高麗家、高麗神社の由来を記し、高麗家の当主高麗興丸(※2)を尋ねて「主人のいろいろの話」を聞きとった。その中で「例年一月十七日



一平が見た やぶさめ行事



令和7年の大宮組やぶさめ行事

神社境内に各村の代表者集り流鏝馬の式を行ふ」と当社の正月行事やぶさめ」を取り上げている。「弓を執るもの皆斎戒沐浴して裸体の儘で矢を射て、その年の吉凶禍福を卜ふのである」とイラストと共にその様子を記した。因みに現在もこの行事は毎年一月中旬に当社近隣に住む大宮組の氏子によって執り行われている。当日は九時頃社殿で祈祷し、社殿前で天に向かって一矢射放った後、場所を移して、設えた的に向かい矢を放つのである。さすがに、かつての様にふんどし姿ではないが、ささやかな神事が継承されていることに当地の穏やかさや豊かさが凝縮されている

## 熊を尋ねて



「熊を尋ねて」冒頭部分

来たが熊が居そうな気配も無い。こりゃあどうも止めた方が良かったかなと紅葉した山を仰いで只今嘆息して居る處であります。」と後悔の言葉で締めくくった。

第二信「ウンザリする馬車の道草」は飯能から台(現日高市台)に至る短い道中の、車掌と里人のやり取りを描いている。「馬車屋さん!娘え嫁に呉れた台(地名)の家え大分採めてる相だから帰り馬車にちよつくら寄って見てやって呉んろや可愛相だから(※1)」(『一平全集』所収「熊を尋ねて」より抜粋以下引用は同書※1は筆者)と里人が車掌に声を掛けると、車掌は「よしよし」と応える。いちいちこんな風だから、中々進まず、ついに一平は馬車を捨て「高麗王が子孫在住せるを訪ふ事にした。」



飯能から台へ道行く馬車夫に里人が声をかけてきて中々進まない

ように思える。

「熊を尋ねて」の道中は、その後再び秩父に向かい、大滝村の猟師儀助に「有無をいはず事情を話し熊狩に伴れて行かれん事を求め」二夜の難行の末、栃本で熊に出会った。「涙が零れた。足も痛し頭も興奮し切って居るから至極簡単に叙する。」と洞穴に熊を確認した時の自身の切迫した状況を記している。洞穴に格子をかけ、熊が飛び出さない細工をすると「最後に、『熊の馬鹿ヤイ』と怒鳴ると・・・そら飛び出した。ズドーン。意気揚々と中津川村の往還を帰る」と記し、通信を結んだ。



熊と格闘している描写

※1「馬車屋さん、娘の嫁ぎ先の台の家が採めているようだから、帰り道によって様子を見て来てください。可哀そうなので・・・」  
※2 高麗家五十七代、高麗神社社掌、筆者の曾祖父である。



写真・岡本一平(左)妻かの子(右)太郎(中央)

明治四十三年東京美術学校西洋画科卒業、大正元年東京朝日新聞社に入社し、漫画を描く。人間生活の機微にふれた鋭い描写と軽妙な警句によって従来の漫画の形式を一変させ、また政治漫画にも一時期を画する。ヨーロッパに遊学し、昭和十三年『世界漫画漫遊』を出版。漫画の芸術化、現代化に努めた。ほか、作品に『一平全集』十五巻がある。

# 地域探訪

《郷土の名山 日和田山と

登山家 田部井淳子氏》



日和田山

昨年の夏に心躍らせるニュースを耳にしました。「てっぺんの向こうにあなたがいる」という題で映画製作が開始されたそうです。映画は昭和五十年、世界最高峰のエベレストに女性として世界初登頂に成功した登山家田部井淳子氏をモデルにした物語です。

高麗神社では、平成三十年に「第三回 高麗郡偉人伝」で、田部井氏の功績を紹介しました。田部井氏は生前、川越に居を構え郷土の名山「日和田山」にはご夫婦で何度も訪れていたそうです。



日和田山から物見山へ  
夫 政伸氏と

『日和田山の山頂の裏手に小さな岩場がある。私たち夫婦にとっては思い出深い場所だ。私も妻も若い頃、この岩場によく通った。冬山のトレーニングに重いザックを背負いアイゼンを着け、冬山用の手袋をはめ、細かい作業の練習をした。』

「田部井政伸 著書『てっぺん』より抜粋」

日和田山は、標高三〇五mでゆっくり登っても頂上まで一時間以内で到達します。休日ともなれば、幼児からお年寄りまで多くの人々が訪れるハイキングコースとして親しまれています。一方でロッククライミングができる岩場もあり、多くのロッククライマーにも知られているのです。

田部井氏は晩年闘病生活を送る中でも登山や講演活動などを続け、治療の合間を縫っては思い出深い日和田山を何度も訪れていました。



上：麓にある記念碑  
右：金刀比羅神社前にて

『暖かい日でも、その岩だけが少しひんやりとして冷たい。乾いた岩の質感をトレッキングシューズの底に感じ岩にかけた手に感じた。妻も同じだった。』  
「この感触、いいわね」 (前掲書)

現在、山の麓には有志により田部井氏の功績を顕彰する為、エベレストを模った記念碑が建立されています。今年の秋に公開される映画を楽しみにしつつ、登山家 田部井淳子氏にも親しまれた

日和田山の魅力を、もっともっと多くの人に知っていただければと思います。

## 田部井淳子 プロフィール

一九三九年 福島県三春町生まれ。一九六九年『女子だけで海外遠征を』を合言葉に女子



登山クラブを設立。一九七五年世界最高峰エベレスト八八四八mに女性として世界で初めて登頂。一九九二年七大陸最高峰登頂者となる(女性世界初)。年数回海外登山に出かけ、二〇一六年十月二十日に亡くなるまでに七十六か国の最高峰・最高地点に登頂。メディアへの出演や執筆、講演などを通じて山登りの楽しさを多くの人に伝えた。出版物に『私には山がある〜大きな愛に包まれた〜』(PHP 研究所)、『再発! それでもわたしは山に登る』(文藝春秋)などがある。



上：エベレスト登頂写真  
下：ベネズエラ最高峰にて

【写真提供 協力・一般社団法人 田部井淳子基金】

## 《期間限定 特別な祈願のご案内》

### 《新入生ランドセルのお祓い》令和七年三月四日〜四月六日の間 受付

高麗神社では、お子様が安全で楽しい学校生活を送れるよう神様にお祈りし、ランドセルをお祓いいたします。

対象者：令和七年春 小学校に入学する児童 (就学している小学生も可)

玉串料(祈禱料)：お気持ちでお納めいただきます。

授与品：御朱印とお名前が入った参拝証。

通学の安全を守る「道中安全」御守り・お祓いの証シール

※ ご予約の必要はございません。

※ 祈願の際は、必ずランドセルを持って来てください。

※ お子様をランドセルを背負っていただきお祓いを受けていただきます。



### 編集後記 担当・保々

素人ながら編集をしています。頁によっては自身で原稿も書きます。こつこつとした作業は、登山で高度を上げていくような、なかなか苦しい作業です。ただ、八割位完成すると、全体の形が見えてきて楽しくなります。八合目から頂上を見るときのように、完成が待ち遠しくなります。「てっぺん」にはどんな景色が広がっているのだろう、今回もそのような心持ちで編集にあたりました。是非、ご一読ください。

### 《七夕 技芸 上達祈願》毎年 七月一日〜七月七日の間 受付

習い事、スポーツ・競技、仕事など、自身を取り組む技芸の上達のため、良き師や仲間との出会い或いは使用する道具・機械の安全など、上達に繋がる願い事を七夕御幣に込めて、大神様に御祈願いたします。

## ◆ 祈願受付について ◆

玉串料・お気持ちで納めていただきます。

※ 普段使われる道具をお持ち頂ければ御神前でお祓いを致します。道具をお持ちになる場合は、きれいな状態でお持ちください。

(例・運動靴、テニスラケット、書道具、カメラ、手芸具など)



祈願随時受付 毎日8:30~17:00 (12/31は、14:00まで)

※ご予約の必要はありません。

初宮詣・七五三・ランドセルのお祓い(3月上旬~4月上旬)

人生儀礼各種・商売繁昌・厄除け・方位除け・車お祓い

高麗神社々務所 埼玉県日高市新堀 833 ☎042-989-1403

